令和７年１月７日

研修だより 59 号

# 教師は世話人

小笠原康晃

「子どもが自ら学びだす「教えない授業」を創る（西留康雄、ぎょうせい、2023)」という本の紹介の続きです。

## 教師は授業のファシリテーターであるべきだ

ファシリテーターとは「グループや組織がより協力し、共通の目的を理解し、目的達成のための計画立案を支援する人のこと」であるとしています。日本語では「世話人」と訳されることがあります。

「教師は授業の世話人である」ということができます。

世話人の役割とは何でしょうか。

世話人の役割は、その会議が順調に進むように段取りを整えたり、必要に応じて意見や指導をしたりすることです。

前に立って子どもたちを導くのではなく、横の位置にいながら、適切な指示、支援をすることが必要であると示しています。

話し合いをするときには、その話し合いが深まるように適切な助言をする。

子どもがまとめをしているときに、そのまとめがより良いものになるように支援をする。

私たちが個別支援でおこなっていたことを広げ、学級全体の中でそのようなことをしていく必要があるということです。

このように取り組むためには、私たち教師の授業観の変容が必要です。

そして、授業の中、単元の中でメリハリを付ける必要もあります。

「押さえるべきところはしっかりと押さえる。その上で、子どもたちに考えさせる。」

教師が「授業を計画する」という考えよりも「授業をデザインする」という考えに近いと感じました。